

森の中の保育園

報告者：浦野 真沙子

★なんて素敵！

ブナの森の小さな一軒家が保育園！！
この保育園は、1991年に12・3人の保護者が自然豊かなところで、自分たちの子どもの保育をしたいと願い、自分たちで中古家屋をみつけ此処の自治体に申し出ました。(デンマークでは、自治体単位で保育所や学校・施設を管理・運営する習慣がある)そこでシュタイナー教育の勉強をした Ms.Hansen (園長先生)に依頼がきて、すぐにここの保育園がオープンしました。2013年9月1日で22年目だそうです。
園長先生はブナの森同様に子どもたちを大きく包み込むような広くてあたたかい心の方で、素敵な笑顔の先生でした。

★自然に包まれ自然と共に生きる

デンマークでは「子どもは子どもらしく、遊んで育つ、遊びから学ぶ」を一貫して行っており、子どもたちは最近の日本では忘れかけている、外で遊ぶことに全力を注いでいるところが印象的でした。園庭にある自然や遊具はすべて子どもたちの物！木のぼりや追いかけっこをしている子どもたちはとっても楽しそう！！
園庭の隅に小さな木がたくさんあり、子どもの背丈にかがんで進むと四方を木に囲まれ、まるで秘密基地のようでワクワクしました。子どもたちはここで話したり、休んだりするそうです。



★いざ、ブナの森へ



〈子ども達は一日の多くの時間を森の中で過ごす〉

園庭で遊んでしばらくすると先生のやさしい歌声が聞こえてきて、子どもたちは遊びを止めてすぐに先生のもとに集まっていました。

これから森へ行きますよ！

やさしい声で子どもと森に行くときのお約束を確認すると、子どもたちもきちんと約束を守って森へ出発。

森の中では歌をうたいながら子どもの人数を把握したり季節の歌をうたったりとみんなで一つの円をつくりとても和やかな雰囲気でした。途中で数を数える歌の時、デンマーク語・英語・ドイツ語・フランス語と色々な国の言語で数えていき、私たちに日本語でうたって先生がおっしゃられ、みんなで1・2・3・4・5と歌うと子どもも一緒に歌ってくれました。

しかし一人の子が「難しいよ」というと、先生は「そうね！でも、繰り返して練習したら、1回目よりも2回目・3回目は上手に言えるわよ」と話されていました。

このことで、私は子どもに教え込むのではなく、納得して自分で取り組む意欲を引き出す先生の姿を学ぶことができました。

★素敵な保護者と先生方

もともとこの保育園は保護者の要望で始まったので、週末に交代で掃除に来るなどとても協力的だそうです。先生方もおおらかであたたかく、アットホームな雰囲気でした。

毎週木曜日に、インガさんが年齢の大きな子6～7名を連れて、どんな天気でも一日中森で過ごしているそうです。また、インガさんは保育士の資格とともに、昆虫・木・花などの知識が豊富で、わからないことは今でも勉強されるそうですが、ここでは先生方皆さんがとても向上心を持って保育に取り組まれることを感じました。

★森の幼稚園で学んだこと

子どもたちの姿と先生方の姿勢で感じたことは、子どもは全力で生き、先生は子どもたちのこれから先、豊かな人生を歩む選択肢を増やしているのだと感じました。

同じ目線にたち・向かい合うだけでなく同じ方向を見る。今だけでなく将来を見据えて子どもとかわる。

この旅で幼児教育に携わる喜びと楽しさがますます大きく広がりました。

